

第2学年 国語科学習指導案

西和賀町立越中畑小学校

児童 男1名 女2名 計3名

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
教材名 「サンゴの海の生きものたち」 (本川 達雄)

2 単元について

(1) 児童について

児童3名は、大きな声で句読点に気をつけながら、表情を付けて読むような音読を楽しんでいる。図書室も良く利用して本に親しんでいる。第1学年の「どうぶつの赤ちゃん」では、問いかげの文から読みの視点を設定して読み取る学習を、第2学年の「たんぽぽのちえ」では、順序に気をつけて様子を読み取る学習を行ってきた。それぞれの学習後には、読みの視点をもとに、他の動物の赤ちゃんや植物のちえについて調べ、説明文に書く学習を行うことができた。

しかし、文章の内容について、問われたことや書かれていることを正確に理解し、的確に答える力が不足している。また、自分の考えの発言内容も曖昧な表現にとどまっている。なかなか自分の思いや考えをもって読み取ることができない。

そのため、本単元では、大事なことを正確に理解し、自分の思いや考えをもって読み取ることができるようにしたい。

(2) 単元及び教材について

第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」である。本教材の指導事項は、「事柄の順序を考えながら内容の大体を読むこと」「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」「語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」である。

本単元は、「サンゴの海の生きものたち」で海の生きものの関わり合いについて書かれた、説明的な文章を読み取る。次に学んだことをいかして、図鑑などを調べて文章にまとめ紹介し合う活動をする。

本教材の構成は、問題提起、具体例Ⅰ、具体例Ⅱ、まとめの大きく四つである。問いかげの文に沿って読みの視点をとらえ、そこに着目しながら共生の関係を読み取っていくことができる。文の構成や表現は、今までの説明文よりやや複雑で、内容の読み取りを間違えやすい部分もある。そこで、接続語や指示語をきちんとおさえ、生き物の特徴や行動に気をつけながら関わりを読み取っていくことにより、説明文の読み取りの力をさらに伸ばすことができると考える。

題材は児童にとって馴染みの少ない海の中を扱っているが、テレビなどにより海の生き物等について知識と興味があると思われる。文中の写真も児童の読み取りを助けるものとなっている。自分の思いや考えを文中の言葉や写真を手がかりに話すことができると考えられる。この学習を通して、生き物についての読み物に興味をもち、他の図鑑などの読み物を読む活動へとつなげていくことができるといえる。

(3) 指導にあたって

第一次では、興味・関心をもたせるように、題名から考えられることを自由に発表させたり、サンゴの海の写真に注目させたい。その後、初発の感想を書かせ、児童の興味・関心を把握する。次に問いかげ文とまとめの文から、文章の大まかな構成をつかませる。そして「生き物発見ブック」を書くという学習の見通しをもたせ、学習計画の大体をつかませる。

第二次では、書かれている事柄の順序に従い、生き物の「特徴」を読み取った後で、「かかわり合い」をまとめていく。それぞれの文は何について書かれているのかを確かめたり、主語の関係をとらえたりする活動を取り入れる。また、内容理解の助けとして、叙述と写真と照らし合わせる。ノートまたは学習シートには、特徴と関わりを分かりやすくまとめることができるようにし、吹き出しやどんな関わり合いなのかを書かせたりする。

第三次では、図鑑などの読み物を使い、さらにいろいろな生き物に目を向けさせていく。また「生き物発見ブック」を作成し紹介し合うことで、説明的な文章を書いて表現する力を高めたい。

本校の研究主題「自らの思いや考えを表現できる子」に関わっては、次の点に留意したい。

- ①自力解決の場における一人一人に思いや考えをもたせるための指導の工夫として
 - ・読みの視点に沿って、サイドラインを引いたり、書き込みをさせたりする。
 - ・読みの視点に沿って、ノートや学習シートに吹き出しや自分の思いや考えを書かせる。
- ②交流の場における児童の思いや考えを広げ深めるための指導の工夫として
 - ・写真カードを動かしながら説明させたりしたり動作化をさせたりする。
 - ・感想を話し聞き合う活動をさせる。

3 単元の目標

◎ 文章の内容を叙述に沿って大事なところを落とさないように気をつけて読み取り、教材と関係のあることを調べ、説明的な文章にまとめる。

【関心・意欲・態度】 ・説明的な文章の組み立てに興味をもって読もうとする。

【読むこと】 ・文章の内容を叙述に沿って、事柄の順序を考えながら読む。
・語や文としてのまとまりを考えながら声に出して読む。

【言語事項】 ・文中の主述、接続語、指示語、文末表現、片仮名表記に注意する。

4 指導計画と評価規準 (11時間)

次	時	学習内容	関心・意欲・態度	読むこと	言語事項
一 つか む	1	題名読みをする。写真などから、サンゴの海についてのイメージをもつ。 全文を読み、感想を持つ。 新出漢字を練習する。	海の生き物たちに興味を持ち、初めて知ったことや不思議に思ったこと等を進んでノートに書くとしている。(観察)	教材文について、初めて知ったことや不思議に思ったこと等を書いて発表している。(観察・発言・ノート)	新出漢字などを丁寧に書いている。(観察・ノート)
	2	問いかけの文について読み取り、文章構成の大体をつかみ、学習の見通しを持つ。(①②段落・⑩段落) 「生き物発見ブック」を作るめあてを持つ。	二組の生き物の関わり合いであることと「生き物発見ブック」を作るということに興味を持っている。(観察・発言)	教材文の読みの視点をおさえ、文章構成の大体をつかむ。 二組の生き物の関わり合いであることが分かる。(観察・発言)	文末表現から、問いかけの文を捉えている。 生き物の名前を正しく捉えている。(観察・発言)
二 深 め る	3	イソギンチャクとクマノミの体の特徴を読み取る。(③～⑥段落)	生き物の体の特徴と行動から、かかわり合いを読み取ろうとしている。(観察・発言)	イソギンチャクの触手とクマノミの出す音を正しく読み取っている。(発言・ワークシート)	主述の関係、接続語、指示語、文末表現、片仮名表記をとらえている。(観察・発言)
	4	イソギンチャクとクマノミの関わり合いを読み取る。(③～⑥段落)		イソギンチャクには毒があり、クマノミは音を出して他の魚を追い払い、互いに守りあっていることを読み取っている。(発言・ワークシート)	
	5	ホンソメワケベラと大きな魚の体の特徴を読み取る。(⑦～⑨段落)		ホンソメワケベラと大きな魚の体の特徴を読み取っている。(発言・ワークシート)	
	6	ホンソメワケベラと大きな魚の関わり合いを読み取る。(⑦～⑨段落)		ホンソメワケベラは大きな魚の口の中を掃除をして食べ物を得ることと、大きな魚は	

	時			きれいにしてくれることを知っていて互いに役立っていることを読み取っている。(発言・ワークシート)	
	7	「サンゴの海のいきものたち」がさまざまに関わり合っていることを確認し、全体の感想について話し合う。(⑩段落)		2組の生き物のかかわり合いを読み取っている。(観察・発言・ワークシート)	
	8	説明的な文章の読み方と書き方について学習のまとめをする。	学習したことを想起して、分かったことを進んで発表しようとしている。(観察・発言)	大きな段落のまとまりに気をつけたり順序を考えながら読んだりすることがわかっている。(観察・発言)	
三 広 げ る	9 10	図鑑などを読み、紹介したい生き物を選んで、「生き物発見ブック」を書く。	好きな生き物を選び、進んでカードに絵を描いたり、教材文の説明に沿った構成で書いたりしようとしている。(観察・ワークシート)	好きな生き物を選び、カードに絵を描いたり、教材文の説明に沿った構成で書いている。(観察・ワークシート)	体の特徴を捉え「～です。」「～のです。」の表現を正しく使っている。(観察・ワークシート)
	11	「生き物発見ブック」をお互いに紹介し合う。	「生き物発見ブック」を進んで紹介し合い、友だちの書いた説明文に進んで質問や感想を話そうとしている。(観察)	丁寧な言葉ではっきりと発表し、友だちの発表を興味を持って聞いている。(観察)	意味による語句のまとまりを押さえている。(観察)

5 本時の指導 (第6時 / 11時間)

(1) 目標

- ホンソメワケベラと大きな魚の関わりを読み取る。

(2) 評価の観点と具体的評価規準

観点	A	B	支援を要する児童の手だて
読む能力	ホンソメワケベラと大きな魚が、もしもお互いにいないと、大きな魚は掃除してきれいにしてもらえないし、ホンソメワケベラは食べ物を手に入れることができないことから、お互いに役に立っていることを自分なりの言葉で話したり書いたりすることができる。	ホンソメワケベラが大きな魚の口の中を掃除して食べ物を得ることと、大きな魚は体をきれいにしてもらいことから、お互いに役に立っていることを話したりワークシートに書いたりしている。	関係をとらえるとき、絵カードなどを準備し、動かしながら教師との対話で、捉えさせる。

(3) 展開

段階	学習活動と学習内容	教師の支援（・）と評価（*）
つかむ 5分	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題をつかむ。 ホンソメワケベラと大きな魚はどんなかかわり合いをしているのだろうか。	・前時までにクマノミとイソギンチャクが「互いに守り合っている」ことを想起させる。 *学習課題が分かったか（観察）
深める 30分	3 本時の学習場面を音読する。 4 小さな魚は大きな魚に食べられないことを押さえる。 ○写真を初めて見た人はどう思うのか考える。 ・びっくりする。訳は小さな魚が大きな魚に食べられそうだ。 ・驚く。食いちぎられると思うから。大きな魚の歯が鋭いから。 ○本当に小さな魚が食べられてしまうのか考える。 ・食べられない。訳は、「でも、食べられることはありません。」と書いているから。 ・なりません。「でも、」という反対の言葉があるから。 ・「でも」は反対のことをいう、つなぎ言葉だから。 5 ホンソメワケベラが食べられない訳を読み取る。 — 自力解決 — 本研究に関わる点① ○訳の分かるところに線を引きましょう。 大きな魚たちは、体や口の中についた虫を、ホンソメワケベラがきれいにそうじしてくれるのを知っているからです。 6 ホンソメワケベラにとって良いことを見つける。 ○良いことが分かるところに、線を引きましょう。 ホンソメワケベラにとっては、そうじをしてとった虫が、食べ物になるのです。 7 学習課題を解決する。 本研究に関わる点② ○一緒にいるとどんな良いことがあるでしょう。 ・大きな魚 ～体や口の中についた虫をとって、きれいにしてもらえる。気持ちいい。病気になる。 ・ホンソメワケベラ～とった虫がえさになる。えさがたくさんある。困らない。安全である。 ○ホンソメワケベラと大きな魚について分かったことと どんなかかわり合いとえばよいかワークシートに書き入れる。 ○ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いを図を使って説明し合う。 ホンソメワケベラと大きな魚はお互いに役に立っている。	・書かれている内容理解のため、音読をさせる。 ・大きな魚とホンソメワケベラの拡大写真を準備し、写真から思ったことを発表させる。 ・写真の細部を良く観察させる。 *自分の思いや考えをもつことができているか。（観察） ・気づかない時は、文章を読み返させて、根拠を指摘させる。 ・サイドラインとして、一線を引かせる。 ・「からです。」は訳を表すことに気づかせる。 ・前時までのクマノミとイソギンチャクが「互いに守り合っている」ことを分かりやすくまとめた図を掲示して、手がかりとさせる。 ・ホンソメワケベラと大きな魚になったつもりで考えさせる。 ・発表内容について質問や良い点、言い換えた方が良い点などを交流するように進める。 ・クマノミとイソギンチャクの関係を表す図に準じたワークシートを用意する。 *かかわり合いを図を使いながら自分の言葉で説明することができたか。（観察） *お互い役立っていることが分かったか（観察） ・「助け合っている。」「協力し合っている。」や「～し合っている」でも、内容的にもよければよいとする。
まとめる 10分	8 本時の学習をまとめる。 ○学習した段落を音読する。 ○本時の自己評価をする。（学習の振り返り） 9 次時の学習内容を知る。	・まとめの読みとして、「でも、～ません。」という表現に気をつけ、様子が分かるように読ませる。 ・学習内容で分かったこと、学習の様子について振り返らせる。

(4) 板書計画

(5) 児童の実態と指導の重点（略）